

レジ袋有料化 2020年7月1日スタート

レジ袋削減にご協力ください



プラスチックは、非常に便利な素材です。成形しやすく、軽くて丈夫で密閉性も高いため、製品の軽量化や食品ロスの削減など、あらゆる分野で私たちの生活に貢献しています。一方で、廃棄物・資源制約、海洋プラスチックごみ、地球温暖化などの課題もあります。私たちは、プラスチックの過剰な使用を抑制し、賢く利用していく必要があります。

このような状況を踏まえ、令和2年7月1日より、全国でプラスチック製買物袋、いわゆるレジ袋の有料化を行うこととなりました。これは、普段何気なくもらっているレジ袋を有料化することで、それが本当に必要かを考えていただき、私たちのライフスタイルを見直すきっかけとすることを目的としています。

みなさんも、レジ袋有料化をきっかけに自身のライフスタイルを見つめ直し、エコバッグを持ち歩く等、できることからプラスチックを賢く使う工夫をしてみましょう。
(経済産業省広報用資料 抜粋)

出前講座・消費者教育(出前授業)など各種啓発活動を実施しています

○啓発活動では…

★若者に対する消費者トラブルの防止のための啓発活動にも力を入れています。

○出前講座では…

★相談窓口のご案内

消費者トラブルで困ったときは、ピピッと相談!!県消費生活センターのほか、お住まいの市町に相談窓口があります。

★消費生活相談の実態と対処の方法

県消費生活センターに寄せられている相談の事例や特徴をお知らせし、その対応策をお伝えしています。

○高等学校等における消費者教育(出前授業)の実施

成年年齢の18歳引き下げに伴う若者の消費者トラブルの増加が懸念される中、県立高校において冊子「社会への扉」を活用した出前事業を実施しています。

○愛媛県社会福祉士会権利擁護啓発劇団「あど坊」の寸劇

特別支援学校において、寸劇を見ながら消費者トラブルについて学習しています。



お問い合わせ・お申し込みは、愛媛県消費生活センターまで!!

☎089-926-2603 (お申し込みは、原則開催希望日の2か月前までをお願いします。)

消費者トラブルで困ったときは、一人で悩まず相談しましょう!

愛媛県消費生活センター 相談専用電話

相談時間 月・火・木・金 9:00~17:00
水 9:00~19:00(祝日・年末年始を除く)

☎089-925-3700

※来所相談については、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで予約制により対応しております。

消費者ホットライン

(お近くの相談窓口につながります)

いやや!

☎188

発行: 愛媛県県民環境部県民生活局県民生活課
〒790-8570 松山市一番町四丁目4番地2
TEL:089-912-2336

愛媛県消費生活センター
〒791-8014 松山市山越町450番地
TEL:089-926-2603



愛媛県 No.187 令和2年8月号

令和元年度の消費生活相談状況がまとまりました!

1 相談件数の年度別推移



PIO-NET(*)に登録された県全体の相談件数は、令和元年度は8,029件と、前年度と比較して1,093件(12%)減少し、4年ぶりに減少に転じました。内訳は、県センターが3,045件(37.9%)、市町窓口が4,984件(62.1%)であり、住民に身近な市町窓口への相談が約3分の2を占めています。

※PIO-NET(パイオネット:全国消費生活情報ネットワークシステム)

2 相談の特徴

- ◆年代別では、70歳以上の方からの相談が1,891件(23.6%)と最多、次いで60歳代が1,193件(14.9%)と続き、60歳以上の方からの相談が約4割を占めています。
- ◆商品・役務別では、架空請求を含む「商品一般」が1,126件(14.0%)と最も多く、次いでデジタルコンテンツ(インターネットを通じて得られる情報)を含む「放送・コンテンツ等」が718件(8.9%)、「健康食品」が548件(6.8%)と続いています。なお、架空請求の件数は742件となり、前年度(1,982件)から大幅に減少しました。
- ◆販売購入形態別では、インターネット通販の普及等を背景に通信販売の相談件数が2,630件(32.8%)と最多、店舗購入が1,745件(21.7%)と続いています。
- ◆危害についての相談は125件(対前年度比158.2%)、特に化粧品(214.3%)が大きく増加しています。
- ◆新型コロナウイルス感染症関連の相談件数(1月~3月)は県、市町合わせて113件であり、内訳は、県センター61件、市町窓口52件となっています(参考:4月~5月は、県、市町合わせて304件であり、内訳は、県センター193件、市町窓口111件でした)。

県民の皆様へ

3密回避の習慣化をはじめ、「感染回避行動」を日常に取り込みましょう!

感染回避行動

①うつらないよう自己防衛!

こまめな手洗いや定期的な換気
十分な栄養と休養で健康管理など

②うつさないよう周りに配慮!

体調不良のときは、まずは自宅療養
他人と接するときは、距離をとるなど

③習慣化しよう3密回避!

「3つの密」のある場への外出
注意など

「家庭でもできる金融教育」

愛媛県金融広報アドバイザー
岡田 純子

●親子で一緒に「お金」について考えることが「金融教育」の第一歩！

お金（の考え方、仕組み）は、私たちの生活・経済活動と多方面で密接に関わっており、金融に関する知識や情報を正しく理解し、主体的に判断することは、社会で生きていくために必要不可欠な能力（金融リテラシー）となっています。しかしながら、日本人は金融リテラシーが低いという話をよく聞きます。また、年金だけでは老後の資金不足が心配される中で、政府の「貯蓄」から「投資（資産形成）」への政策転換もあり、若年時から生涯を見通した家計管理や生活設計（資金計画）が必要とされ、金融リテラシー向上、金融教育の重要性が高まっています。

学校教育に金融教育を取り入れる取組みも始まっており、政府や金融・教育機関などから多く金融教育のテキスト等が公開されていますが、今回は何か特別な教育プログラムを受講するというようなことではなく、身近なところからできる、家庭でもできる金融教育について考えてみました。家庭で「教える」ことはハードルが高いと感じる方も多いと思います。まずは、親子で共に考え「学ぶ」、子どもが「経済や金融の仕組みや役割」に興味を持つ環境や「きっかけ」をつくることから始めてみてはいかがでしょうか？必要とされる金融リテラシーは、時代によって変わります。生活に関わる学びは続けることが重要で、「好きこそものの上手なれ」の言葉通り、嫌い（苦手）にならないこと、興味を持てることが大切です。


●数字を使って具体的に理解する！

現代社会は数学で動いていると言っても過言ではなく、至る所で数学が使われています。もちろん、金融教育においても数学は必須で、知らないと生活の中で多くの損をすることになります。しかしながら、日本人の多くは、AIの時代にも関わらず数学嫌いだと言われています。「数学が大人になって何の役に立つかわからない」のは、日常生活との関わりがわからず、生活に必要な道具として身近に感じられていないからで、物事を感覚的に考えるのではなく、数字を使って具体的に考える方が、わかりやすく役に立つことを体験すれば、使いこなすことが楽しくなり、数学を学ぶインセンティブにもなるのではないのでしょうか。例えば感覚的に判断できない、ちょっと複雑な変動金利やリボなどの分割払いなども、状況によって変わるものを変数にしてグラフや表を活用すると、わかりやすくなり、賢く判断ができるようになるはずですよ。


●リアルビジネスゲームで興味関心を高める環境づくり！

家庭でもできる金融教育として、新型コロナウイルスで一斉休校中の娘（小5）に、一人で行えるリアルビジネスゲームをさせてみました。今回は、主にお金の持つ機能「価値尺度」について考えさせる内容としました。チョコバナナマフィンを作って、家族に販売するビジネス体験をさせ、原価を計算し、「価格はどのようにして決まるのか？」を考えさせます。最近は、オープン価格が多く、需要と供給のバランスで価格が大きく変動します。安くなるだけでなく、非常に高くなることもあるので、消費者自身が価格の判断基準を持ち、賢い消費者となることが家計管理においても重要です。原価を考えることは、ひとつの基準として価値を判断する助けとなると思えます（原価+どの程度欲しいのか=価格が妥当か）。

下図は、今回のマフィン販売ゲームで使った計算例です。



「チョコバナナマフィン」の販売！



※購入した材料を約40gのマフィンが12個作れる分量に直して計算する。

[仕入] 材 料	購入した材料
ミックス粉 200g	324円 (324円/200g)
チョコチップ 25g	72円 (723円/250g)
卵 1個	21円 (213円/1パック)
牛乳 200cc	42円 (208円/1リットル)
バナナ 1本	53円 (213円/4本)
合計	512円

[製 造] 光熱費：50円と仮定（180℃で20分加熱、人件費0円）

☆マフィン 1個あたりの原価を計算

（材料費 512円 + 光熱費 50円）
/12個 = 約 47円 / 個

利益を加えて販売価格を60円に決定！

利益 13円/個 × 12個 = 156円の儲け

座学に比べて、体験学習は遊び感覚で子どもの食いつきが違います。子どものレベルに応じて、材料の仕入費用を借り入れることにして金利について考えさせたり、仕入れた材料の残りを在庫とし、保管費用や在庫処分による損失を考えさせたり、ゲームのルールを工夫し、学びの範囲を広げていけば、幅広い分野に興味を広げることにつながります。また、どんなビジネスをゲームにするのか、ゲーム自体の設計を考えるようになると、何で儲かっているのか、ビジネスモデル（収益構造）を考えるようになり、社会の仕組みを構造的に理解する目を養うことになると思います（例えば、YouTubeのような無料でサービスを提供する会社は何で儲かっているのか？製造原価だけでなく、肩もみやマッサージ提供をするサービス会社をゲームにするなど、いろんなビジネスの原価を考えてみるのも面白いかもしれませんね）。

●金融教育は生きるための勉強！

最近では、子ども向けの金融関連書籍も多く出版されており、公立図書館で借りることもできます。ネットワーク環境があれば、簡単に金融情報を入手することも可能で、子ども向けのサイトも増えてきました（例えば「知るぽると」、「金融庁金融教育」で検索）。無理強いするのではなく、「急がば回れ」で自発的な探求心を育てることが大切です。親子で考え、一緒に学ぶ相乗効果で、親の金融リテラシーも向上するとおおいですね。